

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0747
施設名	聖光三ツ藤保育園
施設所在地	武蔵村山市三ツ藤3-36-10
法人名	聖光会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂場遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

砂場では、シャベルやバケツ等を使って大きな山や川を作ろうとする姿があり、十分なスペースのもとイメージを形にする事を楽しんで欲しいと感じた。また、造形だけではなく、砂だけでなく葉っぱ、小枝、小石等園庭に落ちている自然物を砂場に持ち込みままごと遊びをする姿があり、十分なスペースの中でそれぞれの発想を大切にしたいと感じた。

2. 活動スケジュール

活動期間(令和6年7月～令和7年2月)

- ・他児と共にイメージした物を言葉にして説明し、イメージを共有する
- ・イメージしたものを形にする
- ・様々な玩具の使い道を考え工夫する

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・バケツ、シャベル、小鉢等、砂場道具の充実を図る。
- ・それぞれの作りたい物に合わせてスペース作りを行なっていた。
- ・水を浸透させた固まりやすい砂、さらさらの砂を用意する等、砂の形状を変えて提供していった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・水を浸透させる事によって、砂の硬さが変化する事に気付く
- ・砂の硬さによって用途を変える
- ・感触に対する発見を楽しむ

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・「もっと大きな山を作ってみたい!」「お水を流してみたい!」といった声が聞こえ、単独で行っていた砂場遊びも、共通の目的を持った児童が集まり、複数人で協力し合いながら一つの物を作りあげる姿が見られた。
- ・広々としたスペースを設けた事によって、大きな立体物を作る児童もいれば、ままごと遊びを発展させていく姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

当初から砂場遊びを好み、遊びを展開する姿が見られていた。しかし砂場の範囲に限りがあった為それぞれの遊びを十分に発展させることが難しかったが、広々とした空間を設ける事によってそれぞれが好きな遊びに夢中になり遊びの幅を広げることができるようになっていった。単独で行っていた造形遊びも、大きなものを作る事のできる空間が確保された事によって、複数人で共通の目的を持ち、協力していく中で大作を作り出すことができていた。今後、想像を膨らませ、イメージを形にすることのできる保育を行なっていきたい。